2025年10月7日

各　位

社 名　　ウリドキ株式会社
（コード番号 418A 名証ネクスト）
代表者名　代表取締役　　木暮 康雄
問合せ先　取締役CFO経営管理本部長　　三輪 衛
T E L　050-3181-6247
U R L　https://uridoki.co.jp/

名古屋証券取引所ネクスト市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2025年10月7日に名古屋証券取引所ネクスト市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年11月期（2024年12月～2025年11月）における当社の業績予想は、次のとおりであります。また、最新の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】　（単位：百万円・%）

決算期 / 項目	2025年11月期（予想）			2025年11月期 中間累計期間（実績）		2024年11月期（実績）	
		対営業収益比率	対前期増減率		対営業収益比率		対営業収益比率
営業収益	1,413	－	136.1	697	－	598	－
営業利益	148	10.5	206.4	70	10.1	48	8.1
経常利益	171	12.2	243.4	109	15.8	50	8.4
当期（中間）純利益	174	12.3	169.6	111	15.9	64	10.8
1株当たり当期（中間）純利益	84円 49銭			53円 89銭		31円 71銭	
1株当たり配当金	－円－銭			－円－銭		－円－銭	

（注）1．当社は連結財務諸表を作成しておりません。

2．2024年11月期（実績）及び2025年11月期中間累計期間（実績）の1株当たり当期（中間）純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。2025年11月期（予想）の1株当たり当期純利益は公募予定株式数（30,000株）を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。

3．2025年7月15日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。2024年11月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期（中間）純利益を算定しております。

【2025年11月期業績予想の前提条件】

１．全体の見通し

今後のわが国経済は、コロナ禍からの脱却が進み、個人消費の回復やインバウンド需要の高まりによって経済活動に緩やかな持ち直しの動きがみられました。しかしながら、不安定な国際情勢の中、円安の影響による原材料価格やエネルギー価格の高騰、物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような状況の中、当社の属するリユース業界については、フリマアプリやインターネットオークションなどの普及に伴い、消費者にとってリユース品を売買しやすい環境が広がっていることを背景に、市場規模はますます拡大しております。2023 年において顕在化しているリユース市場規模は約 3.1 兆円となり、2030 年には約４兆円規模に拡大すると予測されております(「リユース市場データブック 2024」株式会社リユース経済新聞社)。また、長期化するインフレ・円安は日本のリユース市場を活性化させる大きな要因となり、特に高単価商品の成長が加速しています。

このような環境の中、当社は C2B の買取プラットフォームサービス「ウリドキ」の更なる事業投資を行い、「世界を変える C2B プラットフォームをつくる」という当社のミッションのもと「客観的な価値の情報提供」や「眠っているリユース品(遊休資産)の掘り起こし」に日々取り組んできました。

上記の取組みを行うことにより、当社の 2025 年 11 月期の業績予想は、当期６月までの累計実績数値を踏まえ、2025 年７月 15 日開催の取締役会において業績予想の修正を行った数値となっており、営業収益 1,413 百万円(前期比 136.1%増)、営業利益 148 百万円(同 206.4%増)、経常利益 171 百万円(同 243.4%増)、当期純利益 174 百万円(同 169.6%増)を見込んでおります。

なお、当社はプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

２．業績予想の前提条件

（１）営業収益

当社はプラットフォーム事業の単一セグメントですが、「メディアサービス」「CtoB マッチングサービス」のサービスごとに営業収益の予想値を算出しております。

・メディアサービス

メディアサービスの営業収益は、「掲載型」、「問合せ獲得型」で構成されております。「掲載型」は、当社の運営するウリドキプラスに記事を掲載して広告主から収益を得るサービスのことで予算修正が行われた当期６月までの実績に対して季節要因を加味した成長率を乗じて残りの月の収益の予想値を算出しております。成長率は、ウリドキプラスにおける主要カテゴリを扱った記事の価値の成長率をベースに設定しております。「問合せ獲得型」は、当社運営サービスからリユース業者に問合せが行われた際に収益を計上しており、予算修正が行われた当期６月までの実績に対して、季節要因を加味する形で残りの月の予想値を算出しております。

・CtoB マッチングサービス

CtoB マッチングサービスの営業収益の予想は、予算修正が行われた当期６月までの実績に対して季節要因を加味した成長率を乗じて月次の予想値を算出しております。成長率は、当社 CtoB マッチングサイトへの主要商材ごとの査定依頼数の予想値をベースに設定しております。

以上により、営業収益は 1,413 百万円(前期比 136.1%増) を見込んでおります。

（２）営業費用、営業利益

営業費用は、主に広告宣伝費と人件費で構成されております。

広告宣伝費は、広告経由の営業収益の予想値に対して予想収益率を乗じて算出しております。

人件費は、人員計画に基づいて想定される給与、昇給及び賞与を考慮して算出しております。

以上により、営業費用は 1,264 百万円(前期比 129.9%増)となり、その結果、営業利益は 148 百万円(同 206.4%増) を見込んでおります。

（３）営業外損益、経常利益

営業外収益は、主に補助金収入と受取利息を見込んでおります。

営業外費用は、上場関連費用と支払利息を見込んでおります。

以上により、営業外収益は 41 百万円、営業外費用は 18 百万円となり、その結果、経常利益は 171 百万円(前期比 243.4%増)を見込んでおります。

（４）特別損益、当期純利益

特別利益及び特別損失は、見込んでいる事項はありません。税引前当期純利益 171 百万円に法人税等を加算し、当期純利益は 174 百万円(前期比 169.6%増)を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績につきましては、様々な要因によって異なる場合があります。

以　上

2025年 11月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年10月７日

上 場 会 社 名	ウリドキ株式会社	上場取引所	名
コ ー ド 番 号	418A	URL	https://uridoki.co.jp/
代　　表　　者	(役職名)代表取締役	(氏名)木暮　康雄	
問合せ先責任者	(役職名)取締役CFO経営管理本部長	(氏名)三輪　衛	(TEL) 050(3181)6247
半期報告書提出予定日	－	配当支払開始予定日	－

決算補足説明資料作成の有無　：　無
決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．2025年11月期第２四半期（中間期）の業績（2024年12月１日～2025年５月31日）

（１）経営成績(累計)　（%表示は、対前中間期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年11月期中間期	697	－	70	－	109	－	111	－
2024年11月期中間期	－	－	－	－	－	－	－	－

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年11月期中間期	53.89	－
2024年11月期中間期	－	－

（注）１．当社は、2024年11月期中間期については中間財務諸表を作成していないため、2024年11月期中間期の数値及び対前年中間期増減率並びに2025年11月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。

２．当社は、2025年７月15日付で普通株式１株につき10株の割合で株式分割を行っております。2024年11月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、１株当たり中間純利益を算定しております。

３．潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は当中間期末時点においては非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年11月期中間期	410	214	52.3
2024年11月期	289	103	35.8

（参考）自己資本　2025年11月期中間期　214百万円　2024年11月期　103百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年11月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2025年11月期	－	0.00			
2025年11月期(予想)			－	0.00	0.00

（注）　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2025年11月期の業績予想（2024年12月１日～2025年11月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,413	136.1	148	206.4	171	243.4	174	169.6	84.49

（注） １．直近に公表されている業績予想からの修正の有無 ： 無

２．１株当たり当期純利益については、「１．2025年11月期第２四半期（中間期）の業績（2024年12月１日～2025年５月31日）」（注）２に記載の、2025年７月15日付の株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

（１）中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無

② ①以外の会計方針の変更 ： 無

③ 会計上の見積りの変更 ： 無

④ 修正再表示 ： 無

（３）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年11月期中間期	1,712,340株	2024年11月期	1,712,340株
② 期末自己株式数	2025年11月期中間期	-株	2024年11月期	-株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年11月期中間期	1,712,340株	2024年11月期中間期	-株

（注） １．当社は、2025年６月11日付の取締役会の普通決議により、2025年６月26日付でA種優先株式のすべてについて、定款に定める取得条項に基づき取得し、その対価として普通株式を交付しております。また、当社が取得したA種優先株式のすべてについて、会社法第178条に基づき同日付で消却しております。なお、当社は、2025年６月27日開催の臨時株主総会において、同日付で種類株式を発行する旨の定款の定めを廃止しております。

２．2024年11月期中間期については、中間財務諸表を作成していないため、2024年11月期中間期の期中平均株式数は記載しておりません。

３．当社は、2025年７月15日付で普通株式１株につき10株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）キャッシュ・フローの概況 …… 3
２．中間期財務諸表及び主な注記 …… 3
（１）中間期貸借対照表 …… 4
（２）中間期損益計算書 …… 6
（３）中間キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）中間期財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

当中間会計期間(2024年12月１日～2025年５月31日)におけるわが国経済は、コロナ禍からの脱却が進み、個人消費の回復やインバウンド需要の高まりによって経済活動に緩やかな持ち直しの動きがみられました。しかしながら、不安定な国際情勢の中、円安の影響による原材料価格やエネルギー価格の高騰、物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような状況の中、当社の属するリユース業界については、フリマアプリやインターネットオークションなどの普及に伴い、消費者にとってリユース品を売買しやすい環境が広がっていることを背景に、市場規模はますます拡大しております。2023 年において顕在化しているリユース市場規模は約3.1 兆円となり、2030 年には約４兆円規模に拡大すると予測されております(「リユース市場データブック2024」株式会社リユース経済新聞社)。また、長期化するインフレ・円安は日本のリユース市場を活性化させる大きな要因となり、特に高単価商品の成長が加速しています。

このような環境の中、当社はC2B の買取プラットフォームサービス「ウリドキ」の更なる事業投資を行い、「世界を変えるC2B プラットフォームをつくる」という当社のミッションのもと「客観的な価値の情報提供」や「眠っているリユース品(遊休資産)の掘り起こし」に日々取り組んできました。

以上の結果、当中間会計期間の営業収益は697,395千円、営業利益は70,440千円、経常利益は109,991千円、中間純利益は111,048千円となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当中間会計期間末における資産合計は410,793千円となり、前事業年度末に比べ121,198千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が営業収益増加に伴い52,092千円増加し、売掛金も同様に営業収益増加に伴い72,907千円増加したことによるものであります。

（負債）

当中間会計期間末における負債合計は196,070千円となり、前事業年度末に比べ10,149千円増加いたしました。これは主に、１年内返済予定の長期借入金の減少40,000千円があった一方で、取引規模の拡大により未払金及び未払費用が34,588千円増加、契約負債及び預り金が9,611千円増加、主に未払消費税等からなるその他が7,672千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産合計は214,723千円となり、前事業年度末に比べ111,048千円増加いたしました。これは、利益剰余金が111,048千円増加したことによるものであります。

（３）キャッシュ・フローの概況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、204,705千円となりました。

当中間会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、95,934千円の収入となりました。これは主に、売上債権の増加額72,907千円があったものの、税引前中間純利益109,991千円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは△499千円となりました。これは有形固定資産の取得による支出499千円を計上したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、43,342千円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済43,342千円によるものであります。

なお、当社は、当中間会計期間より中間財務諸表を作成していることから、前中間会計期間との比較分析を行っておりません。

２．中間財務諸表及び主な注記

（１）中間貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年11月30日)	当中間会計期間 (2025年５月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	152,612	204,705
売掛金	77,870	150,778
貯蔵品	26,259	24,993
前払費用	8,425	5,317
その他	513	45
貸倒引当金	△184	△356
流動資産合計	265,496	385,482
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	1,567	1,408
工具、器具及び備品(純額)	213	462
有形固定資産合計	1,781	1,870
投資その他の資産		
長期前払費用	35	－
繰延税金資産	22,117	23,275
その他	165	165
投資その他の資産合計	22,317	23,440
固定資産合計	24,098	25,311
資産合計	289,595	410,793

（単位：千円）

	前事業年度 （2024年11月30日）	当中間会計期間 （2025年５月31日）
負債の部		
流動負債		
１年内返済予定の長期借入金	46,684	6,684
未払金	65,741	101,495
未払費用	11,568	10,402
未払法人税等	180	90
契約負債	10,912	13,021
預り金	8,306	15,808
賞与引当金	5,270	6,979
その他	9,482	17,154
流動負債合計	158,145	171,636
固定負債		
長期借入金	27,461	24,119
資産除去債務	314	314
固定負債合計	27,775	24,433
負債合計	185,920	196,070
純資産の部		
株主資本		
資本金	61,000	61,000
資本剰余金	11,000	11,000
利益剰余金	31,647	142,696
株主資本合計	103,647	214,696
新株予約権	27	27
純資産合計	103,674	214,723
負債純資産合計	289,595	410,793

（２）中間損益計算書

（単位：千円）

	当中間会計期間 （自　2024年12月１日 至　2025年５月31日）
営業収益	697,395
営業費用	626,955
営業利益	70,440
営業外収益	
受取利息	73
助成金収入	41,364
その他	1
営業外収益合計	41,439
営業外費用	
支払利息	589
支払手数料	1,300
営業外費用合計	1,889
経常利益	109,991
税引前中間純利益	109,991
法人税等	△1,057
中間純利益	111,048

（3）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	当中間会計期間 （自　2024年12月１日 至　2025年５月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	109,991
減価償却費	291
貸倒引当金の増減額(△は減少)	172
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,709
受取利息	△73
支払利息	589
支払手数料	1,300
助成金収入	△41,364
売上債権の増減額(△は増加)	△72,907
貯蔵品の増減額(△は増加)	1,266
前払費用の増減額(△は増加)	3,108
長期前払費用の増減額(△は増加)	35
未払金の増減額(△は減少)	34,572
未払費用の増減額(△は減少)	△1,123
未払消費税等の増減額(△は減少)	7,672
契約負債の増減額(△は減少)	2,109
預り金の増減額(△は減少)	7,502
その他	468
小計	55,318
利息の受取額	73
利息の支払額	△630
助成金の受取額	41,364
法人税等の支払額	△191
営業活動によるキャッシュ・フロー	95,934
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△499
投資活動によるキャッシュ・フロー	△499
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△43,342
財務活動によるキャッシュ・フロー	△43,342
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	52,092
現金及び現金同等物の期首残高	152,612
現金及び現金同等物の中間期末残高	204,705

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等）

当社は、プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。